

## Eric Rivard 教授 講演会報告

### 溶液中での導電性高分子から温和な半導体合成まで ～典型元素化学の貢献～

西本能弘\*

目で見ると  
海外講師講演会



From Conducting Polymers to Mild Semiconductor Synthesis in Solution:  
Main Group Chemistry at Work

Key Words : Main group chemistry, Germanium, Indium, Phosphine

- <開催時期> 令和5年3月6日  
<開催場所> 大阪大学大学院工学研究科応用化学  
専攻化学系会議室  
<講師> University of Alberta  
Eric Rivard 教授

令和5年3月6日に大阪大学吹田キャンパス化学系会議室において、University of Alberta から招聘した Rivard 教授の講演会を開催した。Rivard 教授は典型元素を中心とした化学を展開している新進気鋭の研究者であり、講演会会場は多くの教員と学生で溢れていた。

資源の枯渇や潜在的な毒性が問題となる場合が多い遷移金属とは異なり、典型元素は資源豊富で比較的毒性が低いため、典型元素を中心とした新奇化合物の開発、および機能性材料の開発が世界中で盛んに行われている。このような背景のもと、本講演会において、Rivard 教授はゲルマニウムを軸とした新奇化合物の合成および機能性材料の開発に関する自身の最新の研究を発表された。新規ゲルマニウム錯体の合成から始まり、それらの錯体を利用した画期的なゲルマニウムナノパーティクルの合成法の開発までの研究の展開をわかりやすく講演された。さらに、ゲルマニウムで得られた知見を基に、イン

ジウムやリンなどの他の典型元素へと研究を展開させており、同教授の優れた研究力に著者は驚かされた。発表終了後には、多くの聴衆からの質問が相次いであり、活発な議論が展開された。特に、Rivard 教授が一つ一つの質問に対して、丁寧かつ熱意を持って答えていたことが印象的であり、同教授の人柄の良さを垣間見た。本講演会は多くの教員と学生にとって良い刺激となり、海外研究者との非常に有意義な交流会であった。

最後になりましたが、本講演会は生産技術振興協会の海外講師講演会奨励事業からのご支援を頂きました。関係各位に厚く御礼申し上げます。



自身の研究について発表する Rivard 教授



熱い議論が交わされたあとの Rivard 教授と  
応用化学専攻教員との一枚



Eric RIVARD  
University of Alberta  
Department of Chemistry  
Professor  
教授 博士  
専門/無機合成化学  
E-mail : erivard@ualberta.ca

\*講演会主催者 大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 准教授